

高等学校卒業式 理事長祝辞 (2020. 3. 5)

皆さん、白梅学園高等学校卒業、おめでとうございます。

新型コロナウイルスのため、一緒に祝ってくれるご両親がここにおられないことは、とても寂しいことですが、一人の門出もまた良いものだ、と、開き直ってください。

高校卒業という節目に当たり、卒業生の皆さんの、これまでの努力に大いなる拍手を送り、これからの新たな歩みに心からの応援のエールを贈ります。

そして、初めにお願いがあります。この高等学校卒業という節目の日にあたり、どうかこれまでお世話になった周りの一人ひとりに感謝の気持ちを新たにしてください。特にご両親には感謝の気持ちを率直に伝えてくれることを期待しています。

さて、卒業生の皆さんは、本日をもって、通いなれたこのキャンパスとお別れをするわけですが、皆さんの胸には、おそらく去りがたい思いが募っていることと思います。3年間のさまざまな思い出が、さぞかし皆さんの心を熱くしていることでしょう。人生に別れは付きものとはいえ、苦楽を共にした仲間との別れは辛いものです。

この学園で育んだ仲間との友情を、一生の宝物として大切にしてください。そして、教えてくれた先生方に感謝しながら、この学園で過ごした日々のすべてを糧として、力強く、新しい世界に踏み出していつてくれることを期待します。そして、この学校で学んだことの自信と誇りをもって、どのような世界に身を置こうとも、勇気と希望をもって、歩んで行ってください。自惚れることなく、卑屈になることなく、前向きに、堂々と自分の人生を歩んでください。

ところで、高等学校を卒業してからの長い人生においては、重要な決断のときがたびたび訪れます。そのときには次の言葉を思い出してください。ラインホルド・ニーバーという人の言葉です。

「神よ、私に変えるべきものを変える勇気と、変えられぬものを受け
入れる寛容さと、変えられるものか変えられないものかを見分ける
知恵を与えたまえ。」

変えなければならない、変えたいと思ったら、思い切って変えましょう。変えてはならないと思ったら、勇気をもって踏みとどまりましょう。そうした「変えるべきか」「変えざるべきか」の判断を的確にできるようにするための知恵を身につけましょう。

そのためには、高校を卒業したあとも多くの本を読み、他人の話を聞き、自分自身の志と照らし合わせながら、じっくり考える習慣を身に付けていかなければなりません。

ニーバーはその知恵を神様に授けてくれるよう祈りました。皆さんはどうか、自分自身の力で身につけて行ってください。

そして何よりも大切なことは、そうした知恵に基づく自分の考えを、「信念」にまで高めることです。「信念」を持つことは、生きていく上でとても大切なことです。しかし信念とは、無知や頑なな心や独りよがりから生まれるものでないこともしっかりと自覚しておきましょう。

卒業生の皆さん、自分の可能性を信じ、高い志を持って、これからの人生を歩んでください。そして、皆さんが学んだこの白梅学園高等学校を、いつまでも忘れないでください。

卒業生の皆さんが明日への新たな一歩を、大きく踏み出してくれることを願って、そして、何よりも皆さんの卒業を心からお祝いして、祝辞とします。